

題名: 「USIT: 新しい世代のTRIZ」

著者 (所属): 中川 徹 (大阪学院大学)

[著者複数の場合、発表者に 印]

著者代表連絡先: 564-8511 大阪府吹田市岸部南 2-36-1 大阪学院大学 情報学部

電話: 06-6381-8434 Email: nakagawa@utc.osaka-gu.ac.jp

概要 (200 字程度):

[プログラムに表示します。]

USIT (統合的構造化発明思考法) は、歴史的に(イスラエルで) TRIZを簡略化し、(Sickafus が) 新しい枠組みを導入し、そして (著者らが) TRIZの諸解法を再編成しなおしたものである。これをいま「新しい世代」のTRIZであると主張する根拠は、その全体構造が明確な「6箱方式」のデータフローで表され、またその全体手順が簡明なフローチャートで表され、それらの中にTRIZのほぼすべての知識と方法を適切に取り入れているからである。創造的問題解決に、類比思考に頼らない、論理的かつ創造的なやり方を実現しており、パラダイムシフトをもたらす。

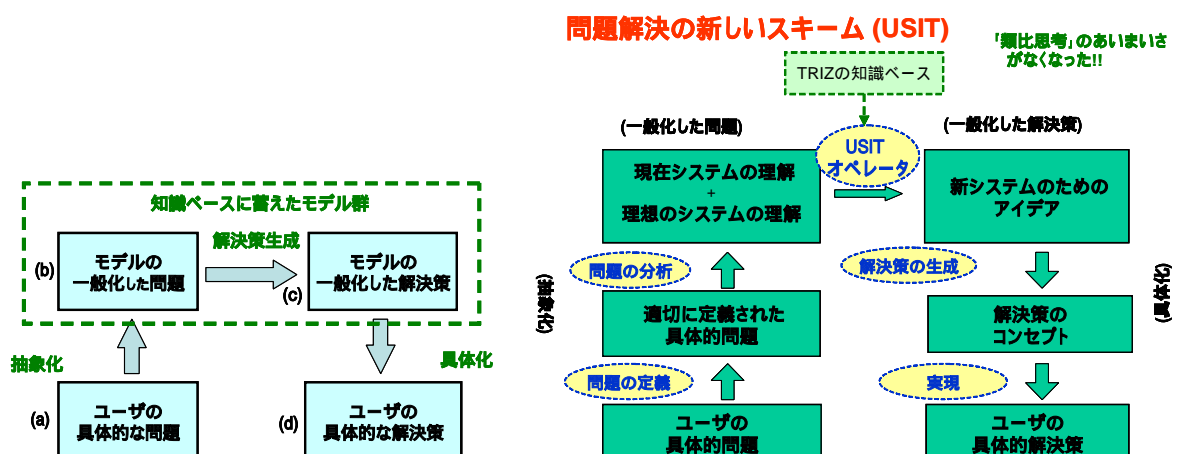
説明:

[申込み時は審査用補足です。最終原稿のときは、印刷・公表します。]

TRIZ (および従来の多くの科学技術) における問題解決の基本モデルは、図1の「4箱方式」で表される。この方式では、まず適当な「モデル」を選択し、それに合うように抽象化することが求められる。この抽象化の方法がモデルによって異なるため、「モデル」が多くなるほど、全体として「強力」になるが、コスト/パフォーマンスが減少する。

一方、USITの基本モデルは、図2の「6箱方式」で示される。以下の特長がある。

- (1) ユーザの問題(a)を「適切に定義した問題」(b)にし、さらにそれを分析して、「現在のシステムと理想のシステムの理解」(c)を作ることは、標準的な方法で行う。これは技法 (USIT) が主導する。
- (2) (c) の情報に、USITの解決策生成オペレータを繰り返し適用して、多数のアイデア (d) を得る。
- (3) アイデア (d) を種にして、解決策コンセプト (e) を組み立て、さらに実験や試作をして具体的な解決策 (f) を実現する。(e) がUSITのゴールであり、(f) が問題解決全体のゴールである。



[第1回TRIZシンポジウム 参加申込み (英訳)]

[英文プログラム案として公表します。]

Title: USIT: A New Generation of TRIZ

[和文タイトルの直訳でなくともかまいません。]

Author(s): Toru Nakagawa (Osaka Gakuin University)

--- [以上は発表申込み時に必要。以下は発表原稿提出時に追加記入する。] ---

Abstract (about 100 words):

[基本的に和文概要と対応させて下さい。]

USIT (Unified Structured Inventive Thinking) has been formed historically by simplifying TRIZ (in Israel), introducing a new framework (by Sickafus), and then reorganizing the whole body of TRIZ solution generation methods (by the present author). It can be regarded as 'a new generation of TRIZ', because its Overall Structure is expressed with a clear 'Six-Box Scheme' while its Overall Procedure with a streamlined flowchart and because almost all the methods and principles developed in TRIZ have been reorganized into the new unified framework. USIT urges us a paradigm shift in creative problem solving toward the direction of more logical and yet creative way much less dependent on analogical thinking.